

「花水木梅雨と命名」(協同組合通信/井戸端論) 平成 18 年 8 月 14 日

大型連休明けから、関東地方ではたまに晴れ間があるものの、雨の日が多く、早くも梅雨に似た生憎の天気が続いている。雨の好きな人は多くはないと思うが、農作物や植物には恵みの雨であることを忘れてはならない。

東京練馬辺りでも花水木の花が白く赤く咲き、夕暮れ時にほのかな香りを伴い、団地に風情を醸し出す。1915年、サクラの返礼として贈られ日米親善の木として、有名になり街路樹として定着した。原木は日比谷公園に今も残る。可憐な白い花にはしとしと降る雨が良く似合う。街並みまで息づき、春の気が葉の濃緑とコントラスト良く、伸びやかで目に心地よい。

気象学辞典によると、「霖雨」とはいく日も降り続く雨のこと。よって、皐月の連日の霧雨や小雨は気象学的には霖雨と呼ぶのが正しい。そして、この霖雨の代表が秋霖、春霖及び梅雨であり、季節を問わない。5月も中旬というのに、東北地方で早くも田植えが始まった。最近では早植えが定着したが、その反対に遅らせる運動までであるというから、農家も春から秋までの天気と消費者の味の好みをにらんで、収穫高の向上に余念がない。日本食の原点、田植えの季節到来。

霖雨の現われ方は地方によって異なるが、いずれも日本の南に前線が停滞して起こることが多い。春霖は3月半ばから4月にかけて菜の花が咲く頃に現われることから、別名「菜種梅雨」ともいう。梅雨の気圧配置は、北海道の北、オホーック海と日本の南の太平洋に性質の異なる気団からなる高気圧がどっしりと構えることで、列島付近に前線が停滞することで形成される。

今年は、奄美地方が5月13日に平年より3日、昨年より8日遅れで最初に入梅し、その翌日に沖縄地方が入梅した。やや珍しい列島の雨季の始まりといえる。

関東地方の霖雨も、まさに梅雨前線の影響。まだ、南北の高気圧は安定していないが、立派な梅雨型の気圧配置となっている。

そこで、菜種梅雨に倣って、今年の春霖を「霖雨」ではパンチがなく、暗いイメージが付きまとうので、シャレで「花水木梅雨」と命名。雨の日の閑話休題。

(気象情報システム株式会社 高津 敏)